

- 一、敬愛の心があつく心情豊かな生徒
- 一、よく考え主体的に行動できる生徒
- 一、体力・気力の充実した健康な生徒



## ポジティブにいう

新年を迎えました。保護者や地域の皆様におかれましても、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2024年は、元日の能登半島地震、2日の羽田空港の衝突事故という大災害から始まりました。被災し、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の方々へ謹んでお悔やみ申し上げます。また、被災された皆さまへ心よりお見舞い申し上げます。

誰もが被災地(能登半島)に思いを馳せ、胸を痛め、何か力になりたいと考えます。困っている人、苦しんでいる人の力になろうとする思いや行動は、美しいし、強くなれるし、自分を大きく成長させることができます。冬休み前集会で「公助、共助、自助」について話をしました。今回のような大災害には「公助や共助」が必要ですが、どんな時であっても、まずは「自助＝自分を大切にする、自分ができることをする」ことが基本となります。自分を大切にすることは、周りの人も大切にするにつながります。みんなの力で「優しさや思いやり」にあふれる年にしていきましょう。

羽田空港の衝突事故において、日航機の乗客乗員379人全員が脱出に成功したのは、命の危険が迫る中、乗客はCAの指示に従い、身勝手な行動を取ることなく、冷静に行動したからだ、世界から称賛されています。

災害大国に生きる私たちは多くの経験をし、教訓を学んできました。「過去は生きる力。未来は生きるためのエネルギー。自分を信じ未来に向かって歩き出さない」。米国の哲学者ジョージ・サンタヤーナはこう説きました。新年を負のスタートにたくありません。マイナスをプラスに変えていく発想＝ポジティブ思考で前向きに生活したいものです。

今年の干支「辰」の文字の由来は「震」。これは生き物がダイナミックに成長して変貌を遂げる様を、天を駆ける辰(龍)になぞらえたと言われています。つまり辰年は、物事が目に見えて大きく動き、変わっていく年です。生徒たちにとって、未来へと大きな希望をもって笑顔で躍進する年になることを期待しています。



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS コラム⑧



### 安全な水とトイレを世界中に

蛇口をひねることで簡単に安全な水が手に入る日本では、水不足の問題を実感しにくいかもしれませんが、そうした中、被災地では、飲料水支給に長蛇の列、避難所トイレの衛生環境が悪化、火災を消化できない、患者の透析ができないなど水不足の報道がたくさんありました。生きていくために必要な水とは飲み水だけに限らず、排泄、入浴、洗濯など、何をするにも水は不可欠です。使用後の排水(下水)もできなくなれば衛生環境は悪化してしまいます。当たり前が、当たり前でなくなったとき、そのありがたさを痛感します。

1人が1日あたりに使う水は、飲み水が10~20。トイレや入浴、洗濯などに使う水道水は、400ℓ。毎日食べる食料の生産には、雨水を含めて2000ℓ~3000ℓの水が使用されているというから驚きです。



日本のように上下水道が完備している国は、世界では半分ほどで、安全な水を得られない人は11億人と言われています。途上国の貧しい地域では、上水道も下水道もなく、生活用水を近くの池に頼るところもあります。しかし、そこには生活雑排水や家畜のし尿も流れ込み、その水を飲んだ人は病気になり、ときに死亡することもあるとのこと。

世界で起こっている水不足を解決するために私たちにできることはあまりありません。せめて、水に関する理解を深めることで、安全な水の価値を再認識し、水をはじめ「もの」を大切にしていきましょう。